

## 週報

## 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~3日	6月 ~10日	6月 ~17日	6月 ~24日	7月 ~1日	7月 ~8日	7月 ~15日	7月 ~22日	7月 ~29日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	105	75	24	13	17	17	17	24	22	32 (34)	23
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	98	78	20	17	26	20	16	27	25	25	16
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	5	3	3	6	2	9	2	1	4	1	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	24	10	2	4	1	3	0	4	4	5	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	12	12	4	3	6	4	2	1	3	5	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	3	1	1	1	0	0	1	0	0	0 (1)	1
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	4	4	0	1	0	1	1	0	0	2	0

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

\* 先週の、その他の1件増は、アエロモナスでした。

\* その他の1件は、アエロモナスでした。

### 広島県感染症発生動向週報

平成30年第30週(7月23日~7月29日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	9	結核	9		2	2	1	3		1	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	1							
四類	4	重症熱性血小板減少症候群	1			1					
		日本紅斑熱	1							1	
		レジオネラ症	2			1					1
五類全数	25	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3			1		2			
		クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1	
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1			
		梅毒	5		1			3			1
		破傷風	2	1				1			
		百日咳	13	1	8			2	1	1	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北…三次市、庄原市

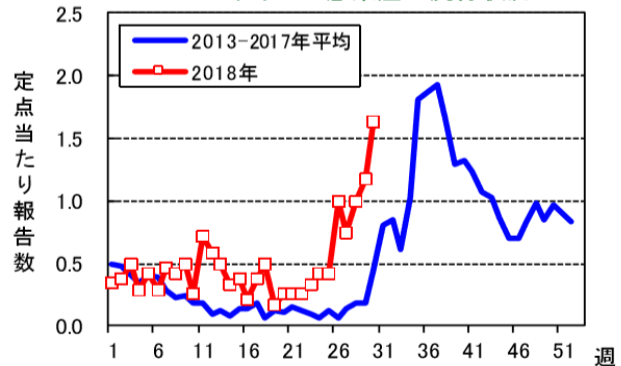
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第30週 7/23~7/29)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

RSウイルス感染症の流行状況



1. RSウイルス感染症

定点当たり1.63人と、前週と比べてやや増加しました。全国的にも増加傾向がみられます。

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。症状は、軽いかぜのような症状から細気管支炎や肺炎などの重篤な症状までさまざまですが、生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、特に乳児への感染を避けるための注意が必要です。

咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃや手すりなどはこまめに消毒するなど、感染予防対策を心がけましょう。

2. 破傷風

今年初めて1件の報告がありました。

【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィリ	インフルエンザ	10	0.27	0.01			小児科	流行性耳下腺炎	6	0.25	0.75		
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.70		↓	眼科	RSウイルス感染症	39	1.63	0.45		↔
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	2.21	1.67		↔		急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	感染性胃腸炎	82	3.42	3.80		↔		流行性角結膜炎	9	1.13	1.18		
	水痘	5	0.21	0.62			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03		
	手足口病	61	2.54	4.64		↔		無菌性髄膜炎	-	-	0.14		
	伝染性紅斑	1	0.04	0.31				マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.17		
	突発性発しん	8	0.33	0.41				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	22	0.92	1.67		↔		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.29			

急増減 ↑ (Red) 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ (Yellow) 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↘ (Light Green) 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ↔ (Grey) ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	80	女性(70歳代)、男性(80歳代)、女性(90歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	4	男性(50歳代)、男性(80歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	9	女性(50歳代)
5	梅毒	3	69	男性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・2人
5	破傷風	1	1	男性(60歳代)
5	百日咳	2	28	男性(10歳未満)、男性(60歳代)

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(40.1) 紅斑 咽頭炎 下痢 腹痛 リンパ節腫脹	6	男	2018/06/09	糞便	アデノウイルス5型
その他の呼吸器疾患	発熱 上気道炎 下気道炎 心不全	1	男	2018/06/14	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	嘔吐 腸重積	2	男	2018/06/09	糞便	ノロウイルスG2
その他の消化器疾患	発熱(38.0) 腹痛 腸重積	0	男	2018/06/16	糞便	アデノウイルス2型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載